

# 1. 巻 頭 言



## 産業医科大学第2内科学医局便りの発刊にあたって

第2内科学教授 尾 辻 豊

2008年度を迎え、教室員・同門の先生方および関連病院の諸先生に謹んで新年度のご挨拶を申し上げます。はやいもので、私が2006年8月に産業医大に参りましてから2年近く経とうとしています。私の力不足も多々あるかと思いますが、何とか2年近く医局の運営に携われたのは教室員・同門の先生方および関連病院の諸先生の御支援・御指導の賜物です。改めて御礼を申し上げます。教室の大きな方針としては、教育・臨床の充実を目指しています。私が最も時間・労力を使っているのは卒前・卒後教育です。また、医局員が最も時間・労力を使っているのは臨床です。教育を熱心に行い循環器・腎臓の臨床の素晴らしさを学生・研修医に理解していただき、当院での臨床を充実させることにより、おのずと研究も発展すると考えているところです。

先日、熊本大学の先生の講演を拝聴していたところ、発表の最後に院内医局員の記念写真を提示されました。それを見て、「そう言えばこの2年間、第2内科では記念写真をとったことがない」とふと気付きました。「やはり記念写真は年に1回程度撮った方が良いでしょう」と思いました。1年ぐらゐ勉強に来て帰って行く人もいますし、私も含め現医局員はいずれ医局を辞める運命にあります。あの頃はあであったと思い出せるものがある方が良いのではと思います。そこでさっそく院内医局員の記念写真を先日取りました。本誌5頁に掲載されています。場所はもちろんラマツイーニ銅像前の階段です。毎年夏に産業医講習会をラマツイーニホールで行っていますが（私も昨年受講しました）、皆さんこの銅像前で記念写真を撮って行かれます。産業医大の最大の観光スポットです。医局員の記念写真はこのように先日終了しましたが、同時に「医局便り・活動報告」のようなものもあった方が良く思いました。医局の現状を教室員・同門の先生および関連病院の諸先生と共有し、同門の先生および関連病院の諸先生の現況も併せて紹介できるような本を年に1回作っていくことが、医局と教室員・同門の先生および関連病院の諸先生との結びつきを深め、全体の発展につながって行くのではないかと考えています。さらにこの医局便りを広く学生や全国の医師にホームページで公開することで、医局のさらなる広がりを探る一助になればと考えています。本年は平成18年度と19年度の2年間のご報告となりますが、来年からは毎年1年分の報告をさせていただこうと考えています。なるべく写真の多いものにして、OBの先生方にも「現在の医局はこんな感じなのか！あの懐かしいA先生が今はこんなになっている！B先生も元気だ！」と楽しんでいただける内容を目指しています。

皆様に読んでいただいて、忌憚のない感想をいただき、この医局便りを建設的なものに発展させていければと思っています。OBの先生方にも積極的に寄稿していただければ、幅広い人に楽しめる内容になると考えています。皆様の医局へのご支援に感謝するとともに、今後とも何卒よろしく願い申し上げます。